乗雲

寺報
第119号
R4/11/1 発行

1985/4 創刊

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町2-8
TEL 0254-43-2419
FAX 0254-43-4560
編集人 広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

稲森和夫さんの著書『生き方』に臨済宗妙心寺派の西片擔雪老師とのやりとりがあります。「このところこういう問題があって、心労が耐えないのです」老師は「たいへんでしょうが、しかたありません。生きていれば、苦労は必ずあるものです」「災難にあったら、落ち込むのではなく喜ばなくてはいかんのです。災難によって、いまの魂についていた業が消えていくのです・・」とその言葉から『天が与えたもうた試練』と素直に受け取ることができた」と書いています。

八月三日夜から四日未明にかけて村上市、関川村、胎内市を襲った線状降水帯による豪雨で雲泉寺も甚大な被害が及びました。その夜は降り続く雨により本堂裏手の川が増水、氾濫しました。住職は一睡もせず経過を見守っていたようです。夜が明けたら境内の様子が全く変わっていました。幸い砂防ダムのおかげで本堂の倒壊は免れましたが床下浸水、禅堂、寺院控え室、接待の間、寺務室等床上浸水でした。また、永代供養墓が倒壊、本堂前駐車場が一部崖崩れと陥没しました。

五日から県曹洞宗青年会、宗務所青壮年会によるボランティア清掃、お盆過ぎには檀信徒総出での床下泥出し、九月に入り中庭の土砂排出作業が始まり少しずつですが復旧がなされています。その間、今まで有縁の方々による励まし、見舞い金、支援物資等有り難く頂戴しています。感謝あるのみです。

昨年十月晋山、今年三月先代住職遷化、そしてこの度の豪雨災害です。若住職には試練が続きますが、「災難にあったら落ち込むことなく、喜んで、天が与えたもう試練に立ち向かうこと」です。この試練を乗り越えることにより、檀信徒との絆もより深いものとなり、本物の本当の住職と言えるでしょう。頑張れ。恭真和尚。

土砂で埋もれた中庭、池があった

令和五年　年回忌表

［回忌］	［没年］
一周忌	令和四年
三回忌	令和三年
七回忌	平成二十九年
十三回忌	平成二十三年
十七回忌	平成十九年
二十三回忌	平成十三年
二十七回忌	平成九年
三十三回忌	平成三年
五十回忌	昭和四十九年
百回忌	大正十三年

▼令和五年度(2023)の年回忌表です。当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。正当各家には十一月中旬に通知しますのでご確認ください。▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお願いいたします。

▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。三十三回忌が弔い納め。

下越水害被害状況　雲泉寺

八月三日夜からの豪雨災害により甚大な被害を被る。

本堂裏側の川が氾濫、土砂流入

本堂前も土砂で埋まる

裏山からの土石流によりお墓倒壊、禅堂、庫裏、客間床上浸水、本堂前崖崩れ、道路陥没等。

写経の会　　毎月第２日曜　午後１時～３時（１月２月は休会）　　静かなお寺で功徳を積みましょう。

月忌米・護持費納付書送付

例年の如く、十一月中旬に納付書を送付いたします。担当役員さんがおられる区域の方は役員さんがお届けします。役員さんのおられないお檀家の方々には郵送で通知しています。納付書と振込用紙を同封してあります。なお、振込用紙（赤色）は加入者負担の用紙ですので振込手数料はお寺負担ですが、郵便局（ゆうちょ銀行）の料金改定により一律に**１１０円の加算料金**がかかりますのでご了承ください。（＊ＡＴＭからの振込が便利です＊通帳及びカードからお振り込みされる場合は加算料金はかかりません）お近くの方は振込でなくお寺へ直接持参くだされても構いません。

出費多端の折り誠に恐縮ですがよろしくお願いいたします。

年回忌案内送付（令和五年度）

当寺では年回忌表を本堂に張り出ししていません。予め今年十一月中に来年度（令和五年）分として正当各家にそれぞれ通知しています。ご確認の上ご法事をご希望の方はお早めにお寺へご連絡ください。

墓地申請認可

既存墓地続きの宅地を墓地に地目変更する手続きが完了しました。新しい墓地には現在二基墓石が建立されています。

日にち薬

関西には「日にち薬」という言い方があるらしい。どんなに悲しいことがあっても、苦しくても、月日を経ることによって乗り越えていける。時間こそが心の傷の妙薬になる。毎日の生活を変わらず淡々と勤めていく。そこに安心がある。

□耕雲寺開山忌

村上市門前耕雲寺様では九月六日、七日、開山梅山聞本大和尚の示寂忌法要が厳修された。今年もコロナ禍で規模縮小、随喜寺院は二十名ほどでした。

□教区両祖忌

十月一日徳岩寺様を会場に十七教区主催両祖忌（道元様、瑩山様の示寂忌）法要が厳修された。

□看雪会（かんせつかい）

十一月九日大本山永平寺にて昭和五十年安居会主催の同安居物故者法要が南澤不老閣猊下導師にて厳修される。修行時代から四十七年経ちました。

梅花だより

昭和五十五年に設立された当寺梅花講は月二回の梅花（ご詠歌）練習会、全国大会、地方大会、各地講習会、検定会、親睦旅行等の活動をしてまいりましたが高齢化に伴う講員の減少で、現在休止となっております。また講員が増えて再開できればと思っています。

お唱えを聴いて見ましょう。

仏事の知識

遺偈

この命がいつ終わりを迎えるのか、この世を去るのがいつなのか、誰にも分からない。その時に及んで家族や近親のものに残す言葉を遺言と呼んでいる。僧侶は毎年、年が改まると辞世の句（今まで生きて来た境涯）を残す。これを遺偈（ゆいげ）と言う。

道元禅師様の遺偈は、「五十四年第一天を照らす　箇の■跳を打して大千を触破す　咦　渾身覓むる無く　活きながら黄泉に陥つ」＊■は足へんに孛　〔口語訳〕五十四年の間、ひたすら第一天を照らし（ひとすじに仏法を求め）、飛び跳ねて宇宙の果てまで駆けめぐった（正法の仏法とめぐりあった）。ああ、いきながら黄泉に落ちようとも、もう何も求めることはない。「道元」角田泰隆師より。道元様のご命日は建長五年（1253）九月二十九日。今年は七七〇回忌を迎えた。いつまでもあの世から私たちを見守ってくれている。

今までの仏事の知識はＱＲコードでご覧下さい。

□松、山茶花伐倒

長年お寺の庭の樹木として景観を保っていた松と山茶花でしたが、虫食い被害により八月お盆前に伐倒しました。

伐倒前

伐倒後

□お盆は例年どおり沢山の方にお参りに来ていただきました。

ポッポ焼き屋台

□お盆の花、ぼんぼり片付け

お盆終了後、お墓にお供えのお花、ぼんぼり、供物等は寺で集めてクリーンセンターに依頼して全部処理してもらいました。

お寺からのお願い

▼ゴミは必ずお持ち帰りください。お墓参りの際にはゴミ入れ用のビニール袋などを持参して、ビニール類、紙類、お花以外の生ゴミ（果物、菓子）等は必ずお持ち帰り下さい。

▼墓掃除道具類（雑巾、タワシ、洗剤容器、軍手、ビニール手袋等）は持ち帰って燃えるゴミとして町のゴミ収集車に出してください。

▼参道脇の自然ゴミ（花、草、落葉、枯れた樹木類）は墓地掃除で集めたゴミです。自然ゴミ以外は捨ないでください。

▼古塔婆は参道中程に古塔婆入れがありますのでご利用ください。集落墓地の古塔婆も受け入れます。

▼お盆の「アサガオぼんぼり」は新発田発祥の習慣ですが、胎内市でも中条地区だけ立て、黒川地区はお上げしません。昔は皆さん十三日夕方からの墓参りでしたが、最近は日中のお参りがほとんどですので、迎え火代わりのぼんぼりは必要ないかも知れません。

堂内全面禁煙

ご協力お願いいたします。

寂光塔（永代供養墓地）

一人暮らしの方、お墓継承にお悩みの方、お寺が永代にわたり供養いたします。

寂光塔（永代供養合同墓所）

動物供養塔（ペット墓地）

動物のお骨を埋葬いたします。檀家さん以外でも納骨供養できます。

動物供養塔（ペットのお墓）